

---

**足が臭くてもヒーローにはなれます。**

凍結 氷

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

足が臭くてもヒーローにはなれます。

### 【Nコード】

N6355V

### 【作者名】

凍結 氷

### 【あらすじ】

ある娘が、賊に絡まれ、どうしようもなく絶望していたその時、一人の男が現れた。

げへへ、お嬢ちゃん、俺たちといいことしねえか。汚らしい身なりの男は黄色い歯を見せながら、娘の腕を掴む。その周りには、この親玉の子分だろうか、小柄で狡賢い目をした賊たちが、はやし立てるように口笛を吹いたり、手を叩いたりする。娘は、怯えてしまつて助けを呼べないようだ。僅かばかりの抵抗はするものの、所詮女の細腕で男の力には敵わない。徐々に、徐々に、暗い路地裏に引きずられ、可愛らしい唇から小さな悲鳴をあげた。

だが、お約束、というのはあるものである。そこに、一人の男が現れた。賊の頭は、眉をしかめると、不愉快そうに地面に唾を吐いた。ちつ、いいとこだつたのによつ、と言葉も吐き捨てて。男は、何も答えない。気味が悪く、おまけに、妙な格好をしていた。全身を纏うボロ布。着ている、というよりは、巻きつけてある、と言つた方が正しいだろう。露出しているのは目の部分だけだ。男は、気配が薄く、影のようであつた。

お頭、どうするんですかい。

子分の一人が、親玉に問いかける。頭は、男から目を離し、下卑た笑い声を上げた。どうせ、ヒーロー気取りのいきがった野郎だ。やっちまえ、お前たち。

子分の何人かが、懐から短刀を取り出した。銀刃が輝いて、男の方を向いた。賊たちは、たちまち、男の周りに群がつて行った。娘が、それを見て、絶望の表情を浮かべていた。娘の細い腕に腕を回した頭は、勝ち誇つたように唇の端を釣り上げる。楽しいことを思いついた、とでも言わんばかりに、そうだ、と声を上げた。どうせなら、そいつの前でこの女、やっちまおうぜ、と。

死亡フラグとは、あるものである。

得物を持つてにじり寄ってくる賊を前にしても尚、男は冷静だつた。そこで初めて、何も喋らなかつた男が口を開いた。ただ一言、

低い声で。

「気をつける、俺の足の臭いは巨象をも倒す」

男が、徐に靴を脱ぎだした。賊どもは、ぼかんとして首を傾げたが、途端、物凄く必死な表情で鼻を塞ぎだした。うめき声をあげ、一人、また一人と、地面に倒れ伏してゆく。おいどうした、と頭が怒鳴った。それも、すぐに、口を嚙んで、鼻を押さえる。苦痛に耐えるように、咽喉を唸らせて、顔を顰める。体を曲げる。腕の力が緩み、囚われていた娘が解放された。だが、それどころではないようだった。

男は、顎に手を当てて、呟いている。

「今日は、微風か」

男が、素足を頭の方に向けた。刹那、悪臭が、そよ風に乗って、賊の頭の鼻腔に届く。親玉は、ああああああ、と喉を？ききだした。狂ったように、頭を左右に振り回し始めた。何かから逃れんとしているようにも見える。やがて、賊は、目を向き、泡を吹いて昏倒しまった。

男は、何事もなかったように靴を履き始める。そして、その上に入念に布を巻きなおし、立ち上がった。腰を抜かしている娘の方に近づいていく。娘は、呆けたようにそれを見上げていた。

「大丈夫か」

男の問いに、娘は、僅かに頭を上下させてみせた。しかし、鼻を押さえ、顔を背けてしまう。「く、くさっ」慌てたように、娘が口を塞いだ。

男は、表情の読めない目でそれを見つめると、背を向けた。歩きだし、しかし、その腕を掴まれる。娘だった。彼女はいつの間にか立ち上がって、男を引き留めていた。しかし気が弱いのか、男の顔を見るや、視線が合うと逸らす。男は、それを黙って見ている。そうして暫らく、男も娘も二人、その場から身じろぎもしない。

風が、二人の間を分かち。

「あの」と、娘が頬を染めて言った。「ありがとうございます」

安いことだ、と布の下で動いた唇の前に、娘が、固形の石鹼を突き出してきた。

「これはお礼です」

そして、恥ずかしそうに男を振り切ったあと、走って向こうに言ってしまう。遠ざかる小さな背中を、男はただ、目で追いかけるのみであった。後には、娘の残り香が、足の臭いに混じって、風と共に消えていく。

(後書き)

著者から一言：なんだこの物語。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6355v/>

---

足が臭くてもヒーローにはなれます。

2011年10月9日09時46分発行